会　議　録

会　議　名	令和元年度第３回小金井市立はけの森美術館運営協議会		
事　務　局	市民部　コミュニティ文化課（はけの森美術館）		
開　催　日　時	令和元年１０月２３日（水）１８時３０分～１９時３０分		
開　催　場　所	市立はけの森美術館　多目的講義室		
出　席　委　員	鉄矢悦朗会長 山村仁志委員 川﨑京子委員 上原佐世子委員 鈴木遵矢委員		
欠　席　委　員	浜田真二委員		
事　務　局　員	薩摩学芸顧問 コミュニティ文化課文化推進係　　吉川、岡本 　同　　はけの森美術館学芸員　中村、桑野		
傍　聴　の　可　否	可		
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由		傍聴者数	１人
会　議　次　第	１　展覧会「伊東深水の光景―戦中から戦後、南方から小諸―」観覧 ２　事業実施報告等 ３　運営協議会提言について ４　意見交換等 ５　その他		
会　議　結　果	別紙のとおり		
会　議　要　旨	別紙のとおり		
提　出　資　料	１ 開催した展覧会・ワークシップ等及び今後の予定 ２ 令和元年度年間スケジュール		

令和元年度　第３回小金井市立はけの森美術館運営協議会

令和元年１０月２３日（水）

【鉄矢会長】　　本日は、ご多忙の中お集まりいただき、ありがとうございます。

ただいまより令和元年度第３回小金井市立はけの森美術館運営協議会を開会いたします。

さて、次第の第１の展覧会の観覧については、既に皆様にごらんいただいたところかと思いますので、次の議題に進めさせていただきます。

配付資料の確認をしたいです。事務局でお願いします。

【事務局】　　では、まず、資料１と書いてあるもので、１番、開催した展覧会、ワークショップ等というものが資料１となります。資料２つ目としましては、次のスケジュール、１０月から３月までの表でつくったものが１つあります。

【鉄矢会長】　　資料２と資料３はとじてありますか。

【事務局】　　とじてあります。

【鉄矢会長】　　資料１、資料２、資料３はとじてある。

【事務局】　　はい。

【鉄矢会長】　　一遍に見れるわけですね。

【事務局】　　資料３が実演レクチャーとワークショップ、「テンペラ」の資料です。資料４が第２回運営協議会においていただいた提言の意見の集約という資料となります。そのほか平成２７年１１月２５日の小金井市立はけの森美術館の提言の資料も配付させていただいております。

以上が今日の資料となります。

【鉄矢会長】　　はい、ありがとうございます。

【事務局】　　あと、会議録も配付しましたのでご確認をお願いします。

【鉄矢会長】　　また会議の途中もし足りないということがありましたら、ご発言ください。

それでは、次第の２、事業実施報告等の（１）開催中の展覧会、ワークショップ等について、事務局から説明をお願いいたします。

【桑野学芸員】　　はい。これまで開催した展覧会、ワークショップ等についてご説明させていただきます。

【鉄矢会長】　　そうですね。開催した。

【事務局】　　すいません、はい。

【鉄矢会長】　　すいません。

【桑野学芸員】　　令和元年７月２７日の土曜日から９月８日の日曜日まで、「模写―西洋絵画の輝き」という展覧会が開催されました。前回の運営協議会の際にごらんいただいたかと思いますけれども、最終的な観覧者数なんですけれども、全体で１，１３０人来ていただきました。一般の方が７８２人、中学生以下が１１９人、未就学児が１８人、招待券のお客様が１７１人、手帳掲示のお客様が４０人ということで計１，１３０人となっております。夏休みだったこともありまして、比較的中学生が来てくださることが多かったかと思います。あと、一般の来館者の傾向ですけれども、テーマが非常におもしろいというか、独創的なテーマだったこともありまして、比較的ほかの展覧会等ふだんから見に行かれているような、美術がすごく好きだという方がいらっしゃっているような感じがしました。また、窓口のところで「大変おもしろかった」というふうにわざわざ受付に言ってくださる方も非常に多くて、比較的好評の展示だったかと思います。

続きまして、関連企画なんですけれども、ギャラリートーク、１・２に関しましては前回の運営協議会で発表させていただきましたので、割愛させていただきます。

第３回目の、９月１日に行われましたギャラリートークについてですけれども、こちらの画像をごらんください。今回西洋絵画というテーマだったこともありまして、薩摩先生に解説していただいたんですけれども、３回目も非常に好評でした。この様子はこのような感じなんですけれども。３回目が一番多くて、３２人の方がわざわざギャラリートークに来てくださったということになっています。展示の解説ももちろんなんですが、薩摩先生のファンがいらっしゃったみたいで、そういった方が来て、薩摩先生と記念撮影等をしたいということで、という方もいらっしゃいました。非常ににぎやかなギャラリートークだったと思います。

続きましては、実演レクチャーとワークショップ、古典絵画技法入門の「テンペラ」ということで、東京藝術大学の木島隆康先生にお越しいただいて、テンペラの技法の講義と実際の実演をしていただいて、参加者の方も少しテンペラ技法というのを体験して学んでいただきました。８月の２４日と２５日、連日行いまして、各日１５人ずつの定員だったんですが、非常に人気のあるワークショップになって、抽選をくじ引きでさせていただいて１５人ずつに絞らせてもらったという状況でした。

これは実際に参加者の方がやっている場面なんですが、金箔を張った後に押して、その金箔を張りつけていく場面になります。

これなんですけども、テンペラ技法ですけれども、卵を使うのがポイントというか、おもしろいところで、絵の具を定着させるところで卵を使うんですが、卵の使い方というのがすごくおもしろくて、白身と黄身を分けて、黄身もさらに、これは何をやっているかというと、手の上で転がして皮の部分をつまんで、さらにその皮に何かとがっているものを刺して中身だけを使うということのようなんですね。これを実際に皆さんでしていただいたというところで、結構これが簡単なようで難しい。しかも、卵も、黄身なんですけど、なるべく白い黄身を使うという。黄色いと結局絵の具に色が残ってしまう。例えば、特に白なんかはつくるときに色が出てしまうので、なるべく、昔だと、木島先生いわくあんまり、今だとすごくおいしいえさとか、色がついているえさを食べていると思うんですけど、そういうのを食べていない鶏が産んだ卵がいいんだということでした。

こっちもおもしろい場面なんですが、このおじさんが非常に上手なお客様、非常に上手でした。はい。こんな感じでしていただいて。

これは絵の具をつくっているところです。実際にこれ絵の具を空のチューブに入れている場面です。特殊な、かなりめずらしい体験に。あっ、これですね。これが。

なかなかやることができない経験とお話なので、非常にお客様の満足度も高かったということです。最後、アンケートございますので、後でごらんになっていただければと思います。

「模写ってあそぼう！西洋編」につきましては、これは前回の運営協議会で既にご報告させていただきました。

４番、「今年もやります！雨の日夕立プレゼント」ということなんですけれども、雨の日に関してはその日に先着５人にオリジナルグッズをお渡しするという、プレゼントをするという企画をしておりまして、実績としましては９人の方が希望されてプレゼントをしたということです。

５番、はけの森美術館とはけの森カフェの連携企画なんですけれども、美術館のチケット半券をカフェに持っていっていただくと、本展にちなんだ期間限定特別スイーツが５０円引きになると。逆にカフェのレシートを美術館にお持ちいただくと、ポストカードをプレゼントするということをしているんですけども、こちらは実績としては１３人ご希望の方がおりました。

また、これ期間後なんですけれども、１０月５日に開催したイベントとしまして、はけの森美術館と江戸文化体験事業をコラボレーションということで、江戸写し絵「大人のための初秋の怪談　播州皿屋敷」というのを江戸糸あやつり人形結城座にしていただきました。参加人数は、一般参加者が２８名で、当日１人キャンセル、関係者は５名いらっしゃいましたということです。

こちらがその様子です。こういった初めに解説をしていただいて、実際のあやつりですとか、このとき幻灯、写し絵をしたんですけども、その仕組みなどをお話しいただいた上で実際その後に幕のところに、スクリーンに映し出して、あやつり、この幻灯をしてもらうということをしてもらったんですけども、美術館の展示室で行いました。

こちら、このような感じで参加者に座っていただいて、しました。部屋が真っ暗になるので、非常に怪談を見る上では盛り上がったところかなと思います。

はい、以上です。

【鉄矢会長】　　ありがとうございます。

【中村学芸員】　　じゃあ、続きまして、開催中の展覧会について報告いたします。

既に展示をごらんになっていただいたところですので、展示内容については割愛しますが、１０月１９日から「伊東深水の光景―戦中から戦後、南方から小諸―」と題しました展示を行っております。

こちらの資料１に本日までの入館者数については記載をしておりますけれども、一般のお客様が４０名、中学生以下の方が１人、未就学児が２人、招待券が６４人。またちょうど昨日、１０月２２日に即位礼正殿の儀に伴って当館無料開館日を設けることになりました。これが決まったのがチラシを入稿してからだったので、チラシにこの無料開館日お知らせを載せることができず、市報などでの告知にとどまって、どのぐらい人が来てくださるかというところ、天候もあってかなり危惧していたところだったんですけれども、５８人お越しくださいました。この他にも招待券を使った人が大分増えております。それ以外に手帳を掲示してご入館の方が５人ということで、現在のところ１１２人の入館者を記録しています。

展示の内容についてはごらんいただいたとおりですが、伊東深水のスケッチ作品というのを酒蔵美術館・ギャラリー玉村本店という長野の渋温泉にあるギャラリーさんから借りまして、そちらの作品を展示するということをやっています。

関連企画は、ほとんどこれから行うもので、一番近いものが１０月２６日、今週末のギ

ャラリートークです。また、お手元に２番目の「ワークショップ　樹脂ねんどを使ってキーホルダーづくりにチャレンジ！」のチラシを配付しております。そちらが１１月９日に行われる、これは子供向けのワークショップでして、実は美術館の傘立てが今年新しくなりまして、以前の、もうさびて穴があいていたものからやっときれいな傘立てになったんですね。今までお客様からも傘立てがかなり古いということで、預けることに対してかなり不安を言われているところもありました。さらに鍵がどんどんなくなってしまって、実は３０本ぐらい差せる傘立てがもう１５本ぐらいしか差せなくなっていたんですが、やっと新しくなりました。

その新しくなった傘立てのことをみんなにも知ってほしいということもあり、ぜひ樹脂ねんどを使ったキーホルダーづくりで傘立ての鍵用のキーホルダーを参加者につくってもらおう、そういうワークショップになっています。

実はこのチラシが今日の朝できたばかりのできたてほやほやのものなんですけれども、まだまだ参加者募集中ですので、ぜひ気になる方はご参加いただければというふうに思います。

３番と４番は毛色が違うというか、３番は「ワークショップ　アニメーション制作技法で描いてみよう」という、これは何回か今までにもやっている、非常に好評の企画です。アニメの制作を実際にやっている人からアニメの背景というのはどういうふうにでき上がっていくかということをレクチャーしてもらって、実際に参加者が描いてみるという、そういうワークショップになっています。講師の先生のスケジュールの都合で会期外の実施になってしまうんですけれども、１月に実施をする予定になっています。

それから、文化財講演会は、これは小金井市教育委員会の生涯学習課との共催になっておりまして、裏の中村研一旧居の環境について、特に建築の観点から講演をしていただくという内容になっております。

というのが今回の展示の関連企画です。

【鉄矢会長】　　はい、ありがとうございました。

何かご質問・ご意見等ありましたら、お願いいたします。

【山村委員】　　直接関係ないかもしれませんが、小諸のすぐ近くの上田市の千曲川の氾濫で、洪水、台風なので、多分この小諸のほうがちょっと上のほうだから、被害はなかったんですね。

【中村学芸員】　　はい。実はこのギャラリーは当日避難勧告が出ているエリアに入って

いましたので、心配していたんですけれども、開始をしてすぐに電話で様子をお伺いしたところ、渋温泉がかなり高い山のほうにあるので、ギャラリー自体は特に被害がなかったとおっしゃっていました。ただ、酒屋さんなので、今ちょうどお酒の出荷シーズンを迎えているということで、そっちで少し流通が滞ってしまっているそうですが、ギャラリー自体は特に何の支障もなくやっていると言っていました。

【山村委員】　　こちらの美術館も特に被害はなかった？

【中村学芸員】　　そうですね、実はこのはけの道沿いはかなり当日は雨風が激しかったようで、避難のお知らせなども流れていたようなんですけれども、美術館と、それから、収蔵作品に関しては、ちょうど展示前で全部収蔵庫に入っている状態だったので、特に被害がなかったですね。ただ、緑地ではかなり枝ですとか、葉っぱですとか落ちていて、お掃除の方が苦労されていました。

【山村委員】　　はけ下だけど、水は特に関係なかったですか？

【中村学芸員】　　お水もそうですね、湧水の量が増えてはいるんですけれども、あふれてそれが、例えば、緑地の中で、緑地に入る人の行動を阻害するとかいうほどには湧いていないので。

【山村委員】　　川崎市民ミュージアムは被害があったようですね。

【中村学芸員】　　なので、ちょっと当日は私たちも出てくるまではかなり冷や冷やしていたんですけれども、来てみたら、おおよそは何ともなかったので、ほっとしました。

【山村委員】　　私も当日東京都美術館に泊まりました。まあ、特に被害はなかったんですけど。

【鈴木委員（館長）】　　自分は一応ここの館長という位置づけなので、泊まり込みはできなかったんですけど、日曜日の朝７時ぐらいに直接来て、中は特に何もない、外観と緑地の点検をさせていただきました。今、学芸員からもあったように、相当な量ではけの小路のところの湧水は流れていましたが、緑地自体の地面が水浸しでぐずぐずになっていたということもなく、特段大きな影響はなかった状況です。

【鉄矢会長】　　ありがとうございます。

何かほかに質問ありましたら、お願いします。

【川﨑委員】　　感想と意見です。薩摩先生、９月１日の一番多かったギャラリートークにこっそり参加させていただいたんですけど、ほんとにすごい大盛況で、何でこんなに人が来たんだろうというのが率直な感想で、何か薩摩先生ファンがいらっしゃる、何か特別

な声かけを薩摩先生からしていたわけじゃなく？

【桑野学芸員】　特にそういったことは聞いていません。はい。多分傾向として徐々にこの展覧会が結構口コミというか、そんなので広まっていたみたいで、少しずつお客さんも情報は浸透していったみたいなんですね。

【桑野学芸員】　聞いていないです。

【川﨑委員】　学芸員の方とか、特別にお知り合いを、いたのかなと思いながら、でも、ほんとに、美術の学生さんらしい人とか、美術が好きなご年配の方、メモをとりながら真剣にお話を聞いていて、すごく活気があって。

【事務局】　ありがとうございます。

【桑野学芸員】　何か薩摩先生に撮影を申し込んだ方も特段何か教え子の方とかではない、一般の方だったみたいなんです。どこで薩摩先生のことを知ったのかわからないんですが、何かこういった方が、こういった方も中にいらしてくださったみたいです。はい。

【鈴木委員(館長)】　複数回来ている人もいましたよね、たしか。

【桑野学芸員】　展覧会自体に３回とか、図録も２冊買って、書き込みするような人もいたみたいで、結構この展覧会に関しては何かすごく美術、ふだんから多分美術をつくられている方とかも来ているのかなという感じでしたね。

【鉄矢会長】　学芸大の心理学の先生も絶賛していましたよ、いろんな人に。

【事務局】　ありがとうございます。

【鉄矢会長】　応援言っていましたので。

【事務局】　それも広まったのかもしれない。

【鉄矢会長】　チケットをごそっと渡して。

【山村委員】　木島先生の応募者は何人いたんですか。

【事務局】　木島先生はちょうど倍、三十何人という方の応募があって、だから、かなり落とさなきゃいけなかったんですね。ちょっと心苦しかったんですけども。

【山村委員】　１回目・２回目それぞれ３０人ずつとか。

【事務局】　１回目が特に多かったと思います。２回目のほうが若干少ない形。

【事務局】　たしか１回目が三十強で、２回目が５人ぐらいたしかお断りという形になってしまったので、２０人ぐらいですかね、申し込みが。

【事務局】　そんな感じでしたね。

【事務局】　見学だけさせてくれないかという方も。

【事務局】　　ああ、いましたね。そんなのもありましたね。あと、もう１回やってほしいという何かメールなんかも入っていて、はい。

【鉄矢会長】　　古典絵画技法に皆さん関心があるというか。

【事務局】　　そうですね。アンケートなんか読んだり、直接お話を伺ったりすると、自分でテンペラをやられている方が実際にどういうふうにやるかというので参加してみたかったりとか、全然ふだんやっていないという方もいらしたんですけど、比較的ふだんからたしなんでいて、さらに知りたいという形のニーズがあったみたいです。

【事務局】　　こういった、ちょっとやっぱりふだん触れることができないものをやるといいのかなという、やる意義があるのかなという気がしますし、あと、やっぱり東京藝術大学の木島先生に直接教わる機会というのが一般の方にはなかなかないので、そういった意味で貴重だと思って申し込んだ方もいらっしゃるみたいです。

【鉄矢会長】　　ありがとうございます。

【事務局】　　はい、ありがとうございます。

【鉄矢会長】　　では、（２）番、今後開催予定の展覧会・ワークショップ・教育普及事業について、お願いします。

【中村学芸員】　　では、会期としましては、今の展示は１２月１５日までですので、年内はこちらで最後になります。

年を明けまして、１・２月は例年どおりで施設のメンテナンスをしたりする期間が入るんですけれども、その後、所蔵展を予定しております。会期としては今あくまで仮の状態なんですが、３月２２日からという形を考えておりまして、この所蔵展のテーマとしましては、今年の５月に「北京官話」という中村研一の代表作で、長らく所在が不明だった作品というのが都内の個人が所蔵していたということがわかりまして、これが当館に寄贈されたんですね。寄贈されて、手続が全て終わって当館の所蔵作品になったんですが、これをまずお披露目をする機会にしたいと思っています。その「北京官話」は中村富子夫人がチャイナドレスを着て座っているという作品なんですが、そういった人物の作品をテーマにして少し作品を集めていったらどうかということで今内容を考えています。

あわせて関連企画に関しても、これも今企画を進めている段階が、前回所蔵展の初日の前のところで１日早くギャラリーコンサートをやって、ギャラリーコンサートの参加者は１日早く展示を見られるということをやったんですね。これが非常に好評で、アンケートの内容でもまたやってほしいという意見が非常に多かったので、この次の展覧会でもギャ

ラリーコンサートを行うという方向で今調整を進めています。演奏がどういったものになるかとか、そういったところはおいおいご報告できるかと思うんですけれども、このまま行けば３月２１日にギャラリーコンサートを行って、１日早く参加者は展示を見られてコンサートに参加できる、２２日から会期がスタートになるという形で、「北京官話」が当館の所蔵作品になったということを広くＰＲしていく機会にできればというふうに思っているところです。

今後の開催予定の展覧会については以上です。

【鉄矢会長】　　はい、ありがとうございます。

では、教育普及事業についてお願いします。

【桑野学芸員】　　はい。続きまして、教育普及事業の予定を話させていただきます。

鑑賞教室が１０月２４日、まさに明日からなんですけれども、１２月にかけて行われます。予定としましてはここに記しているとおりです。市内の小学校を受け入れて、実際に美術館で作品を見ていただく、見てもらって学んでもらうという事業になっています。

その鑑賞教室の前段階として鑑賞教室の事前授業というのをしています。１０月１７日に既に東小学校には参りまして、行ってきました。後ほど１１月２０日に前原小学校という形で順次、４校希望がありましたので、行っていく次第です。緑小学校と本町小学校については日程を調整しているところになります。

また、職場体験学習として１１月６日から８日、１１月２７日から２９日にかけて東中学校と南中学校の生徒さんを受け入れるという形になっています。美術館という職場を実際に体験していただいて、どういう人が働いているのかといったことを学んでもらう体験学習です。

以上になります。

【鉄矢会長】　　はい、ありがとうございました。

何か質問・ご意見等ありましたら、お願いします。

【山村委員】　　「北京官話」というのは何年の作品なんですか。

【中村学芸員】　　１９４０年に作成された作品で、紀元二千六百年奉祝展覧会という、展覧会に中村研一が出展した作品です。富子夫人がおそらく代々木のアトリエであろう環境の中でチャイナドレスを着て座っているという作品で、展覧会出品時には結構評判がよかった。ポストカードなんかもつくられていたんですけれども、その後どこに行ったのかがわからなくなって、所在不明という形になっていたんですね。それが去年の１１月ぐら

いに実は都内の個人の方から家にあるということで、当館に電話がかかってきまして。

【山村委員】　　向こうから言ってきたんですか。

【中村学芸員】　　そうなんです。そのときはまだちょっと寄贈ということではなくて、どうすればいいのかという形のお電話だったんですけれども、その後何度かやりとりをしている中で、保存のためにも寄贈したいということで意向をいただきましたので、それから、手続を進めて、手続が完了したのがちょうど５月というあたりですね。もう既に当館の収蔵庫で作品は保管しているんですけれども、ちゃんと展示をする機会をやはり設けたいと思っていますので、次の所蔵展のところである意味一種の目玉にして展示をしたいと思っています。

【山村委員】　　状態はいいんですか。

【中村学芸員】　　状態は非常にいいですね。経年、ほこりなんかはついているんですけれども、ただ、画面の剥落ですとか、そういったところは特に見られなくて、当初のものと思われる額もついている状態ですので。

【山村委員】　　ああ、そうですか。紀元二千六百年奉祝展は東京都美術館で開催された展覧会で、結構大きな展覧会、大作が多いんですけど、これも結構大きい作品なんですか。

【事務局】　　そうですね。非常に大きい作品で、縦が１メートルぐらいございますので、号数としては今失念しちゃいましたけれども、非常に大きい作品です。

【川﨑委員】　　今回のチラシについて、感想なんですけど、今回のチラシの絵だと知った上で、宮地楽器ホールの中で幼稚園に張るのにちょっともらっていきたいと思って探したんですけど、なかなか見つからなくて、何でだろうと思ったら、白っぽい上に美術館の名前とか、展示会の名前がぱっと目につくところになくて、やっと見つけられたという感じだったんですね。なので、ほかの美術館とか博物館のチラシも上に書いていないもの半々ぐらいかと思うんですけど、できたら、右上にはけの森美術館、展示会の名前がどこかしらに書いていたほうが、チラシの場合は大体ラックで、上１５センチぐらいしか見えていないので、そこにぱっと目を引くようにあったほうが手に取ってもらいやすいんじゃないかなと思いました。

　このワークショップのチラシもすごくわかりやすくて、お友達に配る用に今日持って帰ろうと。

【事務局】　　まだ枚数ありますので、ぜひお持ちいただければ幸いです。

【川﨑委員】　　私が「協議会の委員をやっているんですけど」と言って、子供が集まる

広場とか、そういったところに張ってくださいと依頼することは可能ですか、私が足を運んだ場所に。

【事務局】　それは全然。

【川﨑委員】　問題ないですか。

【事務局】　問題ないです。

【川﨑委員】　もしよかったら、今後美術館のチラシとか、こういうのがあったら、張ってみます。

【事務局】　ありがとうございます。

【山村委員】　ついでに、図録も大変よくできていて、展示もすごく見やすくてよかったです。ただ、図録の判型を、何というか、わりといつもばらばらな感じがするんですが、それは何か考えていらっしゃるんですか。

【中村学芸員】　今回の図録の判型に関しては、２０１７年に市川市から伊東深水のスケッチを借りてきたときにやはりＡ５サイズで横でつくっていたんですね。

【山村委員】　また同じにしたんだ。

【中村学芸員】　そうなんです。同じサイズで、実はそれでちょっとそのときも表紙が二色刷りで、シリーズというわけではないんですけれども、今回ちょっと発展型という意味を持たせたいと思って、意図的に市川市のときとちょっと似ているんだけれども、ちょっと違うという。

【山村委員】　なるほど。薄いものなので、あっちの図録とは違ってなくしやすいという、そういうこともあるかなと思います。何か後でこれ小金井市はけの森美術館だなとかいう認知してもらって、またなくしにくいような、何か工夫できないでしょうか。

【鉄矢会長】　背表紙ないと見えなくなってくる、小さくて。

【桑野学芸員】　そうですね。背表紙がつけられるぐらいの厚みの図録がつくれるといいんですけど、なかなかそこが難しいので、ちょっと今回は、実はまだ２０１７年のリーフレットも在庫があるので、この展示に興味を持ってくれた人が２冊買ってくれたらいいなという。

【山村委員】　もう１つとセットすればいいですね。

【桑野学芸員】　はい。で、セットで１，０００円ちょうどになるようにしています。

【山村委員】　何か小金井らしさを出して、セットで販売するとか、セットで保存できるだとか、そういうものをつくってもらえるといいかなと思うので、よろしくご検討くだ

さい。

【事務局】　　はい、ありがとうございます。

【鉄矢会長】　　これ東南アジアの、実際対象になるジャカルタ、インドネシア、大使館とかにも。

【事務局】　　大使館には送っていないです、はい。

【鉄矢会長】　　送ったほうがいいんじゃないですか。

【事務局】　　そうですね。ちょっとやってみます。

【鉄矢会長】　　せっかく母国の古いときのスケッチがあるという意味では、戦争の話とは別に、やっぱり送って、丁寧にお手紙を添えて送ったほうが、で、もし来るなら来る日を教えてくださいというぐらいな感じのほうがいいんじゃないでしょうか。

【事務局】　　ありがとうございます。早速送ってみます。

【鉄矢会長】　　あと、すいません、展示、絵もすばらしかったんですけど、展示が僕は曲がり方が逆ですごくきつかったんですよね、縦書きで右回りというのが、文字が。あれはどっちがよかった、初めには横書きだったので、素直にすっと入ったら、今度は縦書きで左に戻されてというのが行きにくい展示だなと思ったんですけども。

【中村学芸員】　　すいません、あれは私が欲をかきまして、借用点数を実はかなり増やしてしまったんですね。前回市川市の２０１７年のときは３８点借りてきたんですけれども、今回５１点借りてきて、さらにプラス４点ここの手持ちの伊東深水を出そうとしたものですから、かなり展示数がパンパンになりまして。全てどうにかして入れ切るためにそこの部分では少し動線がつらくなってしまったというところがあります。

【鉄矢会長】　　バナー随分長いので、縦文字でずっと読むので、というところとか、多分これは悩みどころだったと思うんですけども、そういう悩みどころが実は小学生にすごくきくんじゃないかなという、大人も悩むんだよというのを、子供が、わかる子はいるんだと思うんです。そういうふうにやって、美術館の展示の１つの日本語のおもしろさを感じて、そんなことも赤裸々に話していただくといいかなと、ヒットするかと。

【山村委員】　　ついでに。バナーは色が違った方がよかったのかもしれない。バナーの色と作品の色が何かけんかしちゃっている感じで、あくまでも作品を見せるためなんだから、バナーは文字だけにして、色はなかったほうがよかったかもしれない。

【鉄矢会長】　　特にバナーの赤のほうが強く出ちゃって。

【事務局】　　そうですね、印刷がちょっとはっきり出過ぎたので。

【鉄矢会長】　はがきより原画のほうが赤かったですと、「ああ、ほんとだ」と思ってと原画をもう１回見ると、暗いじゃないかというのがあったりしましたけど。

そのほかありますか。

キャプションで、十が古い拾ですよね、廿四と。だけど、１個だけ二十日、二十になっていたから、気になったんです。

【桑野学芸員】　あれがちょっと、伊東深水がどう書いているかということに対して今回忠実にやろうと思っていたので、そこに合わせていたので。ただ、実際作品を預かってきて、もう１回確認したら、ちょっと……

【鉄矢会長】　縦になっていた。

【中村学芸員】　なったところもあったので、ちょっとそれでずれちゃったりしています。

【鉄矢会長】　些末なことなんですけど、子供大好きなところなので。

この間も一度掛川のステンドグラス美術館に行って、「ステンドグラスが裏返しのが１個あるんだよ」と言ったら、学生真剣になって探して、見ていましたから。そういうネタでも多分子供たちはいろんなものを真剣に見ると、鑑賞教室を楽しめるので。

【事務局】　はい。

【山村委員】　小諸の風景、実際写真を見せていたんですが、あれを撮ったのは誰なんですか。

【中村学芸員】　あれが、実は平成１０年ぐらいに酒蔵ギャラリーで長野の、おそらく小諸の市立美術館じゃないかと思うんですけれど、そこに貸したときに撮ってくれたそうなんですね。

【山村委員】　小諸の市立美術館で。

【中村学芸員】　それで、急遽そういった写真が出てきたから、よければ一緒に展示しないかということで貸していただきまして、中確認したところ、確かに風情がよく残っている写真で、おもしろいものだったので、急遽展示をすることにしました。

【山村委員】　今回撮った場所には行ったことがありますか。

【中村学芸員】　実際に一度行って、小諸の市内を実は自転車で走って、各地の場所を確認したんですけれども、やっぱり初めて行った場所で、ここがそうだというふうにピンポイントに場所がこちらで判断できるほど土地勘がなくて。風情をあくまで感じる程度だったんですけれども、ただ、小諸の学芸員さんはやっぱり地元だということでかなり細か

く調べて、場所を照合したみたいですね。

【山村委員】　　山がどう見えるかというのがポイントみたいですね。それで描いた場所が推定できる。

【鉄矢会長】　　随分地面削って、下がっていたら、絵と比べて。

【山村委員】　　もちろん家とか、そういうものは変わります。坂なんかも随分変わっていたりしていますけど、山は変わらない。

【中村学芸員】　　平成１０年なので、多分またそこからさらに二、三十年たって、今の状態ではさらに変わっているところもあると思うんですけど、ちょうどスケッチと現在の間ぐらいに入る写真があって、非常におもしろいなと思ったので。

【鉄矢会長】　　はい、ありがとうございます。

　では、次第の３番目、運営協議会提言について。はい、お願いします。

【事務局】　　では、運営協議会の提言については前回からいろいろとご意見をいただいているところですけれども、ここに前回いただいたご意見を集約いたしまして、課題として挙げられることと評価する点というところをまとめさせていただきました。

　それで、今回またちょっとご意見があればいただいて、今お手元に平成２７年のときの提言の、見本としてこれをお渡ししておりますけれども、どんな形で提言具体的にまとめればいいかというところのご意見をいただいて、会長、副会長と事務局でまた取りまとめるようにしたいなと思っているので、まず、この課題として、課題または評価すべき点のご意見をさらにいただくことと提言の体裁についてのご意見をいただければと思っております。

【鉄矢会長】　　はい、ありがとうございます。

　では、何かご質問・ご意見等ありましたら、お願いいたします。

　ご意見は今回で終わりはありませんので、まずは今気がついたところがあったら、お話しいただけると。

　緑地及び茶室については言及はしないの？

【事務局】　　言及はしない？

【鉄矢会長】　　これ今博物館の提言ですけど、現状のところをずっと読んでいくと、ここの増築の話までは出ているんだけど、ここの増築以上に茶室が文化財になったとか、緑地の大分被害が大きくなってきて、緑地の、ちょっと怖いなとかいうのを入れておくというのを。

【事務局】　　それはここの課題４のところに前回のご意見としてまとめが入っておりますけれども、これも入れていただいたほうがよろしいかなと思います。

【鉄矢会長】　　はい。そうですね。この今後の課題の４の前に、提言の一番前の序文のところ。

【事務局】　　あっ、序文のところですか。

【鉄矢会長】　　うん。序文のところがここの美術館をどこだと思っているかというのの認識としてやっぱり茶室と緑地も何か含めている意識があるという。

【事務局】　　美術館もそうなんですけども、この一帯をやはり一緒に成長していかなきゃいけないかなと思いますので、含めて考えていただけるとありがたいです。

【山村委員】　　前回は評価と課題で分けてあるんですけど、今回も、どうしましょうか、平成２７年の提言では、それまでの評価と今後の課題ということでやっていたんですけど、同じような形のほうがいいんですか。

【事務局】　　それは、私見としてはこれはすごく見やすいかなと思うし、課題が浮き彫りになってくるかなというふうには思います。

【事務局】　　なかなか評価していただける部分が少なくて、ちょっと心苦しい部分が。

【山村委員】　　いやいや、そんなことはないと思いますけど。

【鉄矢会長】　　評価あげましょうよ。

評価すると、何かその人数でできるじゃないと言われちゃうと。議事録カットです。

【山村委員】　　そうなんですよ。クオリティーはだんだん上がってきているなとは思うんですけど。

【鉄矢会長】　　そう言うと。

【山村委員】　　人員問題はまさに努力はされていると思うんですけど、ここが全然解決されていなくて残念です。

【事務局】　　そうなんですよね。この１番に、この間、山村先生おっしゃった人員問題全然変わっていないじゃないかというところが。毎回この提言の１番の常勤学芸員の必要性というところが常に載っているという状態なんですけれども、これはもうずっと課題、いつ解決するかわかりませんが、課題として載せていくしかないのかなと。

【鉄矢会長】　　でも、休館する日数が増えたことによって多少の働き方改革はできるようになったとか、そういう評価をして、休館日数が増えて、増やすことで何とか対応するようにしていったという評価、でも、一方でこういう「休みが多いんですか」という質問

がある、市民からの意見はあるというのを突っ込む。

【事務局】　　そうですね。基本的にここは休館期間をとらないと回っていかない、薩摩先生おっしゃった。それによって、なかなかその辺が、どうしても表にその辺が出て理解してもらえない。

この間、ちょっと話前に戻っちゃうんですけど、江戸文化体験事業なぜここでやったかというと、実は休館中の美術館は中に何もないんだよというところを見せたかったんです。休館中の美術館というのは一応展示物は全部しまってしまって全くの空っぽになる。その空っぽになった状態で準備をして次の展覧会を始めるんだよというところも見てもらいたいということで、特に、そして、夜の美術館というところで見せたという部分もあるんですけども、その辺のところがやはりなかなか一般の市民の方には理解していただけなくって、どうしても自分が行きたいときに美術館がやっていないと苦情になるというところがあるので、その辺細かく……。

【鉄矢会長】　　やるんですけども、細かくやってほしいんですけど、苦情があるというのが多分人を増やす。市民からの声があるということに対して「これは仕方がないことですよ」じゃなくて、言われちゃっているんだなと美術館として受けとめておいたほうが。

【事務局】　　そうですね、もちろんそうです。言われちゃっています。はい。

【事務局】　　あと、すいません、学芸員から言っていいのかわからないんですが、多分先生、山村先生が今展示とかの質が上がってきているというのは、１つはやっぱり中村ひのさんが今年で５年目になるんですけど、その前１年間特別な予算が付いて働かれていて、それだけ長い５年間の蓄積があって、今回の展示も結局前のやつの発展型ということで広がりを持って示すことができているので。

【山村委員】　　まさにそうだね。

【事務局】　　そういったところで、やっぱり学芸員自体の人的なところの育成というところが大きいのかなと思います。

あと、私もここのところでは１年目ですけれども、やっぱりもう７年も前に働いていますから、そういったところでの、小金井市が負担していないところでの育成状態があって今があるので、そのあたりというのは認識があったほうが今後の美術館の展開としてはより豊かになっていくのかなというのは感じています。

【山村委員】　　そうですよね。継続性が重要で、どうしても美術館というのは所蔵品があったり、その特徴というか、特性があって、それを理解するまでに何年かかかります。

【事務局】　　そうですね。

【山村委員】　　それを活用するのにまた何年かかって、活用したものをまた新たに展開させるまでさらに何年かかって、もう２０年ぐらい勤めて初めてそういうサイクルができるだろうという感じなんですが、5年の任期だとやっぱり途中でぶつ切りになっちゃって、また最初からという形になってしまいがちです。

【事務局】　　あと、ちょっと公立館という特性もあって、書類の手続とかがやっぱり、私も前公立館だったので、ここでもすぐにある程度理解できるんですけど、ちょっとやっぱり一般の事務感覚とは特殊なんです、違うんですよね。その辺も多分何も経験がなくて、例えば、ここに5年間ということで入ってきた場合には初めの何年かはそういったのを思いながらやるというだけで時間が費やされてしまうのかなという感じもします、はい。

【鉄矢会長】　　なかなか難しい。

【中村学芸員】　　難しいです。あとは、どうしても休館期間を今まとめてとる形にせざるを得ないというのは、この建物自体は１９９０年に建てられて、やっぱりそれなりに老朽化してきているんですね。空調ですとか、あと、ドアのたてつけとか、そういうところに至るまでやっぱり細かいところでいろいろなふぐあいが出てきているところは確かであって、多分１０年前はけの森美術館があった状況に比べれば、今の段階でよりやっぱりいろんなところにダメージが出てきていて、1月・2月のあたりなんかは特に2カ月間以上、２カ月強閉めっ放しの状態になるので、どうしてもお客様からはその辺、「来たかったのに」とか「何をやっているんだ」、外で、「何もやっているように見えないじゃないか」という苦情というのは出てしまうんです。ただ、どうしてもやっぱりそこに2カ月たっぷり休みをとることによって壊れた空調だとか、あと、調子の悪くなったドアだとかという部分を直す余地ができているという状態になっているので、今後として、これは3番の施設メンテナンスの問題についてと関連してしまうところになってしまうんですけれども、老朽化していく施設というところと、それをいつどうやって直すのかというところがやっぱり時間がたてばたつほど大きな問題になってきてしまう。

【鉄矢会長】　　そうですね、長期修繕計画をしっかり立てることと、エコ改修を早期にしないと、多分空調設備とか、電気設備が効率の悪いのがずっと入って、バブルのときのものに比べたら。

【中村学芸員】　　そうです。業者さんにもこれは使い方云々という問題ではなくて、取りかえの時期に来ているという指摘を受けるような機械というものも出てきているんです

ね。そう考えると、長期の休館がとれるから、そこでとりあえず場当たり的な修理をするということで、いつまでやっていけるのかもよくわからないし、実際のところそれで何とか回っている現状がいつまで、それがだめになったときにどうすればいいのかというところは、これは非常にここの館の課題だし、もしそれが起きてしまったときに館としてやっていけるのかというのがすごく不安なところではあるんです。

【鉄矢会長】　起きてしまったときの被害額を逆に言うと想定して保険をかけましょうと提案するぐらいで、その保険料をかけるんだったら、改修しようと思わせるのが。

【山村委員】　何年になりますかね、最初の設備、それが。

【事務局】　１９９０年に建って、で、今２０１９年ですから。

【山村委員】　３０年。

【事務局】　そうです。で、１回ここの多目的講義室をつくったりするという形での改修は入っていますけれども、そのときはあくまで中の部屋の割り方を変えるという状態だったようです。

【事務局】　１、２階の展示室の空調は変えています。

【事務局】　そういったところで１回改修は入ったけれども。

【事務局】　でも、収蔵庫とか、それ以外の部分が手つかずでそのまま来ている。

【事務局】　特別所蔵は２回ぐらい変えているかな。

【鉄矢会長】　１０年前の冷蔵庫は何倍も電気代がかかる。

【事務局】　本当にそうです。

【山村委員】　クーラー、エアコンも随分違うよね。

【事務局】　せっかく新しいの入れたのに、何か機械に外れてしまったらしくって、新しい空調毎年どんどんよくなりますよね。

【事務局】　夏の暑さとかも、多分前に想定していた以上の暑さが出ているので、そのせいもあると思うんです。

【鉄矢会長】　役所の予算なので、役所の持っている全ての施設は対等で、順番に修理をしていくという話なんですか。

【鈴木委員（館長）】　明確にどういう順でやっていくというのは、現時点では市役所全体として持っていないんですね。『建物総合管理計画』という本を、２９年度だったかな、イベントのときにつくって、建物整備維持とか、整備とか、そういう大きな方針をつくっています。その中でそれぞれの個別の施設の方針で計画をつくっていこうということで、

来年度それぞれの施設、こういう美術館だったり、集会室だったり、あるいは体育館だったり、そういうところの個別の計画を委託してつくる。１０年間のスパンでどのタイミングでどこを直していくかとか、そういうのをつくっていこうという形で、今役所の中の部署は違うんですけども、公共施設の担当で今準備をしているという状況になっています。その中で、美術館のところで施設の調査をされていく中で、例えば、改修が必要であるとか、件数も洗い出されていくのかなと思っています。

【鉄矢会長】　　それは今年ですか。

【事務局】　　来年です。

【鉄矢会長】　　来年。

【事務局】　　はい。

【鉄矢会長】　　１年で。

【鈴木委員（館長）】　　計画をつくって。その令和３年から１０年間の計画をつくる形になって、その中でどのタイミングでどこの施設の何をやらなきゃいけないのみたいな形で出てくると思います。それが計画どおりに行くかどうかというのが、予算の問題もありますし、自分の所管の施設だけでも集会施設入れて十何カ所ございますし、全庁的に見たときにすごい莫大な負担になってくると思います。

【鉄矢会長】　　市民は税金払っていると思っているんですよね。市民が税金払っていると思っているから、自分が使っている施設が雨が漏れているとか、何かいろんなことを言って。

【鈴木委員（館長）】　　そうなんです。ちなみに集会施設も自分の所管なんですけども、やはり動き出してもなかなか手を入れられないというのが、参画は難しいというのはありますね。

【鉄矢会長】　　なるほどね。計画を立てても「何でうちがここだけ雨降っているんだ」と言われちゃうと。

　そのほかに。

　では、お気づきになりましたら、また事務局へ。

【山村委員】　　いつまで。

【事務局】　　次が多分１月だと思うんですけれども、そのときには素案をつくったものを皆さんで検討していただいて、今年度はもう１回、提言のためにもう１回多く文教の予算をとっておりますので、素案確認していただいて、こちらでもう１回つくり直したもの

を最後のときに皆様に承認していただくという形にしたいですので、１月、１月だよね。

【事務局】　大体２月。

【事務局】　２月？

【事務局】　というケースが多い。

【事務局】　そうしたら、５回やらなきゃいけないので、１月もしくは２月の際にある程度素案をつくらせていただきたいので、この評価と課題の体裁でよろしければ、１１月中にご意見をいただけるとありがたいです、ご意見がある場合。

【鉄矢会長】　１１月中。

【事務局】　はい。そして、会長と副会長には最初の扉の文章を何か、仮でよろしいので、送っていただけると、こちらで編集いたしますので。こういった形でしょうか。以上です。

【山村委員】　前回の何か提言も１枚表裏で、別紙で評価と課題にしたんですけども、これはちょっと重複ですね。

【事務局】　そうですか。

【山村委員】　どっちか１枚でいいんじゃないでしょうか。

【事務局】　評価と課題だけですか。

【山村委員】　評価と課題だけでいいんじゃないでしょうか。

【事務局】　だけ。なるほど、なるほど。あっ、はい。序文の下に評価と課題。

【山村委員】　でいいんじゃないかと思いますが、どうでしょうか。

【事務局】　はい、わかりました。

【鉄矢会長】　ありがとうございました。

　では、４番目の意見交換というところに移りたいと思います。何かご意見等ございましたら。

　すいません、これキーホルダーづくり気になっているんですけど、すごい小さい子来ちゃって、べちょというのをつくって、「できた」と、「これつけて」と言ってもつけてくれるという。

【事務局】　つけます。

【中村学芸員】　実はこのキーホルダーを何で傘立てにつけるかというと、古いほうの傘立てでどんどんみんなが傘を忘れて帰ってしまって、鍵を持っていっちゃうということがあったんですね。どんどんどんどん使えない傘立てのものが増えてしまったので、古い

傘立てというのはほんとに入れる、差し込む、傘に、申しわけ程度はけの森美術館のタグがついているというもので、そうするとやっぱり人はそれをポケットに入れて忘れて帰っちゃうというケースがすごく多いんですね。それに対して新しい傘立てになってまたどんどん使えない部分が増えてしまうともったいないので、どんなものでも誰かが頑張ってつくったキーホルダーが鍵についていたら、それを勝手に持って帰るということはしないんじゃないかということを期待しているので。それは……。

【山村委員】　ポケットにあると邪魔になるぐらいの大きさ。

【事務局】　お煎餅ぐらいの大きさにしようかなと。

【山村委員】　それいいよね。

【事務局】　はい。だから、どんなできというのも変ですけれども。

【鉄矢会長】　頑張ってというのが大事だものね。頑張っていない作品が入っちゃうと嫌だろうなと思って。

【事務局】　誰かが、でも、それなりに手をかけて、ここの２時間ぐらいで頑張ってつくったキーホルダーがついていたら、さすがにそれをそのまま持って帰って知らんぷりというお客さんはいないだろうということで、長く傘立てを使うためのアイデアです。

【山村委員】　できるだけ大きいのを。

【事務局】　大きいほうがつくりやすいと思う。

【鉄矢会長】　はけの森美術館の判子を最後に押すのはどうでしょうか。

【事務局】　そうですね。

【鉄矢会長】　いいかなと思います。

そのほか。

【山村委員】　今年間休みは何日ぐらいですか。

【中村学芸員】　以前、試験的に週５開館を試したりもしていたので何が、それをここ２年はやっていないんですね。で、週６開館で、会期大体２カ月間ぐらいで回していますので、会期中は週５開館でやると４０日ぐらい２カ月間で開いていますので、それで、企画展が２つで８０日で、所蔵展が一月半と考えると、多分年間の中で、３６５日のうちの３分の１ぐらいは開館しているようなペースで動いていますね。ただ、先ほども言いましたように、１月・２月にまとまった休みが入ったりしていますので、そういうところの部分で少し休みの幅ができている状態になっています。

【山村委員】　ああ、なるほど。でも、全体では１２０日ぐらいの開館ですね。

【事務局】　　そうですね。

【事務局】　　１３０日ぐらいですかね。１２８日だったような気がします。

【山村委員】　　そうですか。それぐらいでいろいろなことができます。例え、「閉まっているじゃないか」とか言われても恐らくちょうどいいぐらい。

【事務局】　　そうですね。

【事務局】　　ぎりぎりという感じですね。

【事務局】　　ぎりぎりでやれる日数。

【山村委員】　　１３０日。

【事務局】　　そうですね。あと、現実的に考えて展示が１カ月半から２カ月というのが、長くて２カ月が限界だと思うんですけど、２人でやって３本から４本というのはちょっと限界、２つ企画になるので。はい。

【事務局】　　借りてきたものを返して、で、さらに次のものを借りてくるというふうに考えると、展示と展示の間がやっぱり１カ月切ってしまうと、かなり無理な、タイトなスケジュールで動くことになりますし、それから、あと、ここの館の事情としては、６月というのはどうしても湿気が多過ぎて作品を展示室の中に出すというところがリスクがあるというふうに今のところ判断していて、６月はどうしても作品をできるだけ出さずに閉めておきたいという形で動いていますので。

【山村委員】　　ここは博物館相当施設になっていますか。

【事務局】　　なっていない。

【山村委員】　　じゃあ、縛りはないんですね。

【事務局】　　ないです。一応それは東京都の教育委員会に聞きに行ったりはしたんですけれども、なかなかこういう体制なので、どうなるかなというところで。

【山村委員】　　そうですね。そうすると、開館日数も含めていろいろ言われますから。

【事務局】　　はい。一応聞きに行ったところでとめてしまっているんですけれども。登録したほうがいいのか、悪いのかという。

【山村委員】　　それこそ体制の問題とか。

【事務局】　　そうなんです。ただ、登録されていないものですから、東京都の調査の中で小金井市に美術館がないことになっているんですね。それは悔しいなと思いつつ、まだそこも課題。

【山村委員】　　そこも課題ですね。

【鉄矢会長】　　では、意見交換等よろしいでしょうか。はい。

では、５番目のその他というところで、次回の運営協議会日程。

【事務局】　　その前に。

【鉄矢会長】　　はい、その前に。

【事務局】　　すいません、前回小金井市の芸術文化振興計画第２期の策定委員に運営協議会からどなたか出ていただきたいということで、山村先生にお声かけをしたところ、お忙しいのに快くお引き受けいただきましたので、今回山村先生に出ていただきますけれども、一応こちらで皆様にご承認いただければと思いますので。

【鉄矢会長】　　はい、ありがとうございます。お願いします。

はい。では、その他の中で、議事録の公表についてお願いします。

【事務局】　　今日、第２回、前回の議事録をお配りしておりますので、こちら校正がある方は来月、1カ月後の１１月２２日金曜日までに美術館に校正のご連絡をお願いします。

以上です。

【鉄矢会長】　　はい、ありがとうございます。

では、次回、運営協議会の日程について、どなたかご意見ありますか。

～日程調整～

【鉄矢会長】　　はい。では、１月２４日と２月２８日を候補に。

（「はい」の声あり）

【事務局】　　ありがとうございます。

【事務局】　　調整させていただいて、またご連絡差し上げます。

【鉄矢会長】　　はい。ほかにございますか。

なければ、以上ではけの森運営協議会を終了します。お疲れさまでした。

――　了　――